

家庭での防災対策について

地震、洪水、台風など大災害はいつどこで発生するか分かりません。その被害を最小限にできるかどうかは、日ごろからの心がけと備えにあります。そこで、今回は家庭での防災対策についてお知らせします。

①食糧・飲料水の備蓄

大災害が発生すると、輸送活動に大きな支障が生じ、食糧が手に入らなくなる状況も考えられます。また、一度に多くのけがが発生したり、医療機関自体の被災により、けがをしてもすぐに治療を受けられない状況も考えられます。

このため、救援活動が受けられるまでの間、各家庭では家族構成を考慮して食糧や飲料水を蓄えるとともに、救急医療品を準備し、緊急に持ち出せるようにしておくことが必要です。



②我が家の安全チェック

阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊により多くの尊い生命が失われました。このような被害を出さないために、建物の耐震化を図ることが最良ですが、費用がかかるため、まずは家具の固定や家具の上にも重いものを置かないといった対策をとりましょう。家中をチェックし、危険箇所があれば安全対策をとっておきましょう。



③定期的な家庭防災会議

家族みんなの防災意識を高め、各人の役割分担や連絡方法、緊急集合場所などを確認するため、月に一度程度は家族みんなで話し合いをしましょう。これを重ねることによっていざという時、落ち着いて適切な行動ができるようになります。

災害はいつ発生するか分かりません。皆さんの家庭でも、災害に対する意識を高めて、災害対策を考えてみましょう。



○持出品リスト○

●食料●

3日分×家族人数
主 食：米、乾パン、インスタント食品など
副 食：缶詰、梅干、佃煮など
調味料：みそ、しょうゆ、塩

●飲料水●

一人につき1日3リットルを最低3日分

●救急医療品●

包帯、ばんそうこう、滅菌ガーゼ、三角巾、体温計、はさみ、ピンセット、消毒液、常備薬など

●非常持出品●

携帯ラジオ、懐中電灯、予備電池、現金、貴重品、衣類、タオル、ティッシュペーパーなど

●その他●

家族構成により必要なものを用意しましょう

消防車による救急活動について

平成14年中の松前消防署の救急出動件数は1,008件と年々増加を続けており、松前消防署に配備されている1台の救急車と消防組合管内に配備されている救急車で運用しています。時として連続した救急要請に対して、素早く確実な対応に支障をきたす場合が出てきています。

そこで松前消防署では、増加の一途をたどる救急出動への柔軟な対応として、救急隊員の資格を持った消防職員が消防車などで現場に駆けつけ、救急車が到着するまでの応急処置や救急隊と連携した素早い活動を行います。住民の皆さんの要望に少しでも応えることを目的とし、救命率の向上をめざした活動です。

救急車を呼んでも、場合によっては消防車や消防広報車がサイレンを鳴らして到着する場合があります。驚きや戸惑いを覚えることもありますが、救急車を呼ばれた方に対する応急処置の必要性を第一に考えてのことです。ご協力をお願いします。